

医学史 No.6

スノウと疫学

—— コレラの地図から始まった科学的公衆衛生

目標：ジョン・スノウのコレラ調査（1854年）を通じて疫学的思考法（仮説→観察→検証）を理解し、近代公衆衛生の誕生・EBMの起源・現代の疫学とデータサイエンスを論じられるようにする。

衝撃体験：歴史の転換点

導入：1854年ロンドン、コレラが大流行。当時の定説は悪い空気（ミアズマ）が原因だった。スノウは地図を使ってこれを覆した。武器は顕微鏡でも実験でもなく、聞き込みと地図だった。

歴史の構造：症例の地図化（ブロード街ポンプ周辺に集中）→ 仮説形成（ポンプの水が原因）→ 介入（ポンプの取っ手を外す）→ 効果確認（死者数減少）

清光学院 AP SEIKO / スプリント医学史 No.6

採点者の視点 —— 合格答案と不合格答案の分岐点

採点者の視点

採点者の視点

採点者はここを見ている —— スノウと疫学・コレラ・感染症で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

スノウと疫学・コレラ・感染症では、疫学的推論の根拠が答案の質を大きく左右します。

② スノウと疫学・コレラ・感染症で採点者が見ているポイント

「スノウがデータから感染源を特定した推論プロセスを現代疫学の文脈で示した答案」が高評価

💡 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

核心1：疫学的思考法の構造

疫学的思考法の構造：疫学は誰が・いつ・どこで・何に・なぜかかるかを集団レベルで分析する学問。スノウの方法は現代のコホート研究・GIS分析の原型。

核心2：ミアズマ説の打倒と科学的方法論

ミアズマ説の打倒と科学的方法論：スノウの地図は病原体特定前（コッホのコレラ菌発見は1883年）に感染経路を証明した。観察・仮説・検証という科学的手法が理論なき介入を可能にした画期的事例。

核心3：現代への連鎖：COVID-19の接触者追跡

現代への連鎖：COVID-19の接触者追跡：スノウの手法はCOVID-19での接触者追跡・地理的クラスター分析に直結する。170年前の方法論が現代の感染対策の基本として生きている。

 **続きは講義でご覧いただけます**

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。